

きたきゅうしゅうち い き た ぶん か きょうせい げんじょうちようさ  
 北九州地域における多文化共生の現状調査

しゅうけいけっか  
 集計結果について（まとめ）

ちょうさがいよう  
 ●アンケート調査概要

たいしょう しな いざいじゅう がいこくじん とくべつえいじゅうしゃ りゅうがくせい のぞ  
 対象：市内在住の外国人（特別永住者・留学生を除く）1,000人

ゆうこうかいとうすう かいしゅうりつ  
 有効回答数：304 回収率：30.4%

きかん へいせい ねん がつ にち がつ にち  
 期間：平成21年2月5日～2月22日

くわ めいていど ちょうさ おこな  
 ※加えて、20名程度のヒアリング調査を行っている。

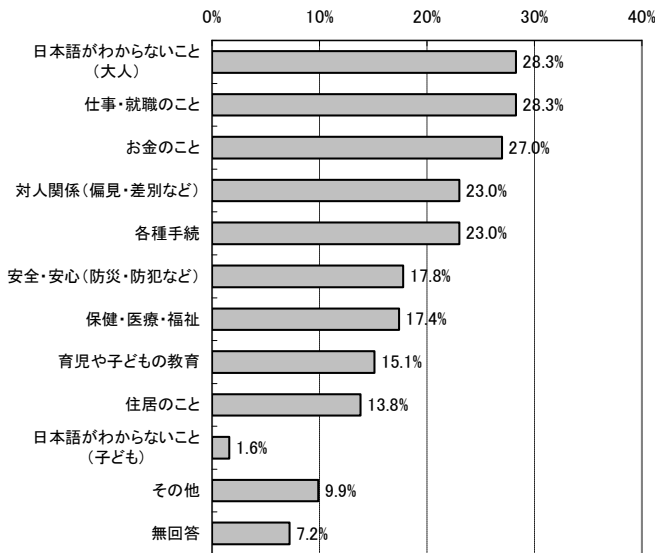
けっかがいよう  
 ●結果概要

にほんごがくしゅう  
 【日本語学習について】

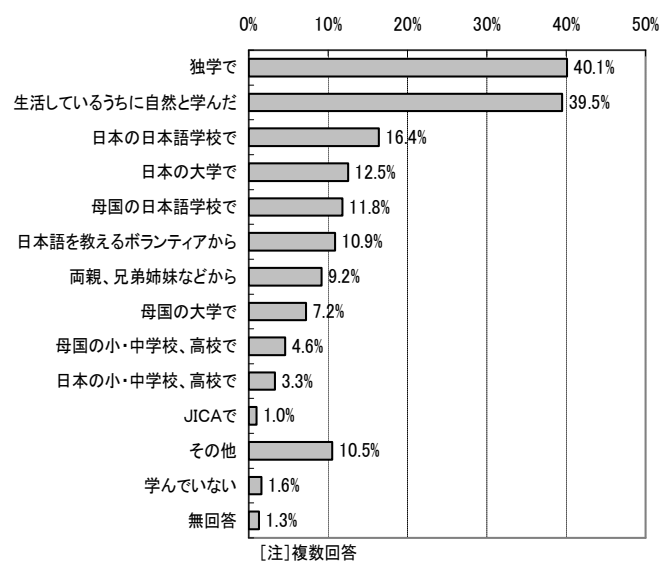
にほん せいかつ こま なや しごと しゅうしょく にほんご  
 ・「日本の生活で困ること・悩み」として、「仕事・就職のこと」と「日本語がわからないこと（大人）」が1位となった（28.3%）。

にほんご がくしゅういこう かはんすう まな おも げんざい まな  
 ・日本語の学習意向については、過半数（53.6%）が「学びたいと思うが、現在は学んでいない」と回答しており、その理由としては、「時間がないから」に次いで、「お金がないから」「語学教室・学校の情報がないから」が多い。

◆日本の生活で困ること・悩み◆

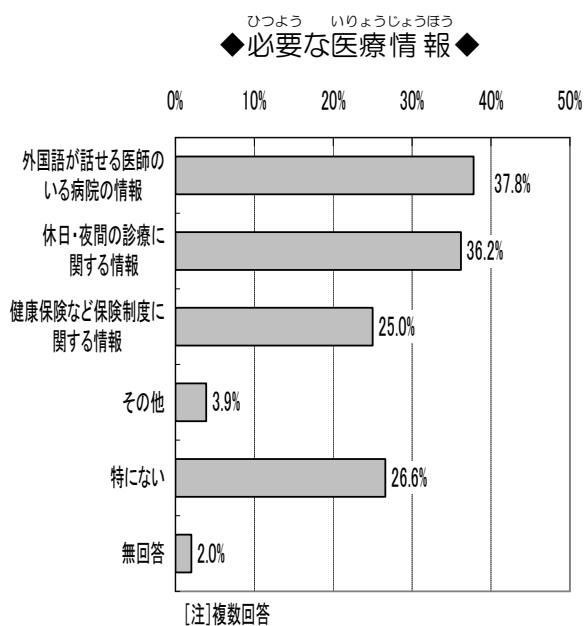
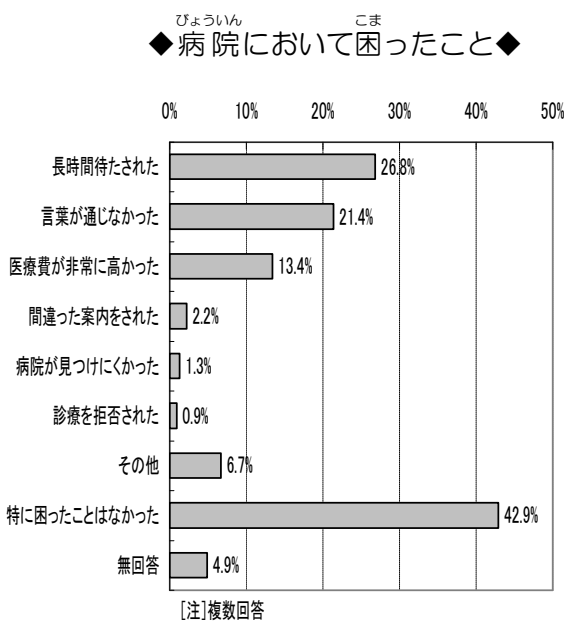
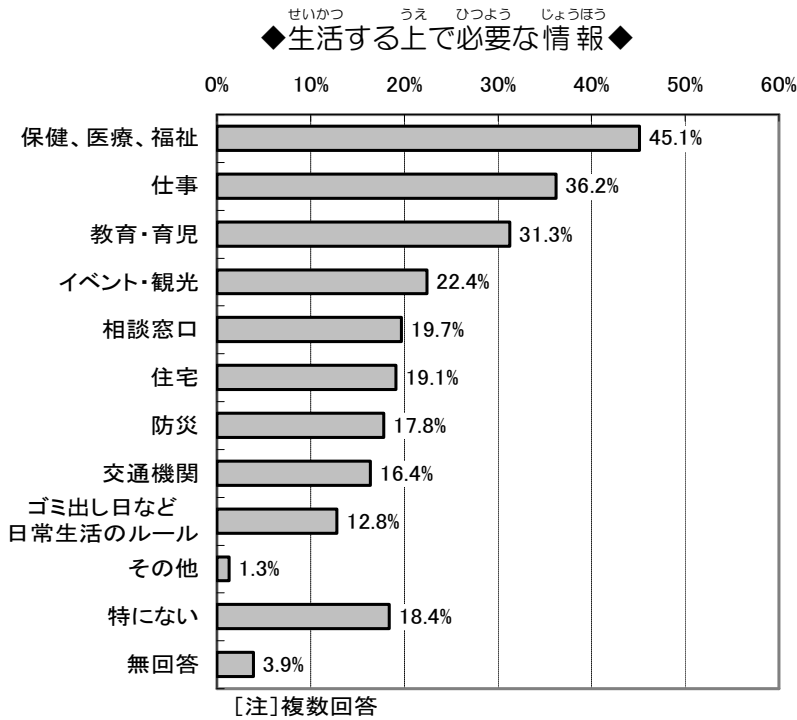


◆日本語の学習意欲◆



【保健・医療・福祉について】

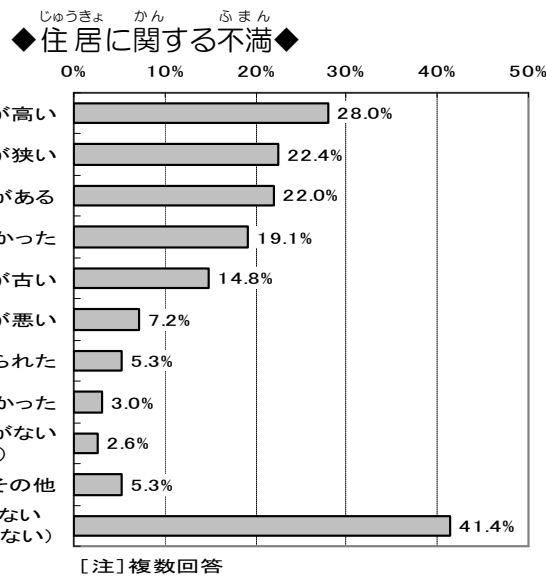
- 「生活する上で必要な情報」として、「保健、医療、福祉」が45.1%で1位であった。
- 「病院において困ったこと」として、2割以上の方が「言葉が通じなかった」を挙げており、「必要な医療情報」としては、「外国語が話せる医師のいる病院の情報」が37.8%で1位となっている。



(じゅうきょ)

## 【住居について】

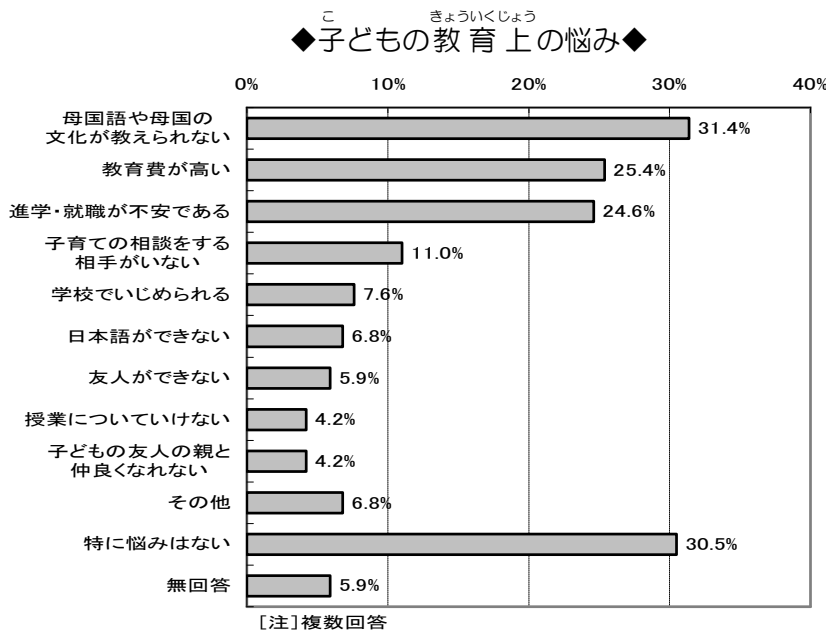
- 住居に関する不満として、「家賃が高い」(28.0%)、「部屋が狭い」(22.4%)に次いで、「敷金・礼金という習慣がある」(22.0%)、「保証人を探さなければならなかった」(19.1%)が多かった。
- ヒアリング調査においても、敷金・礼金の負担や保証人の問題についての意見が多く聞かれた。



(いくじ きょういく)

## 【育児・教育について】

- 「生活する上で必要な情報」として、「教育・育児」が3番目に多く、高い関心がある。
- 「子どもの教育上の悩み」としては、「母国語や母国の文化が教えられない」が最も多く、ヒアリング調査でも同様の意見が聞かれた。

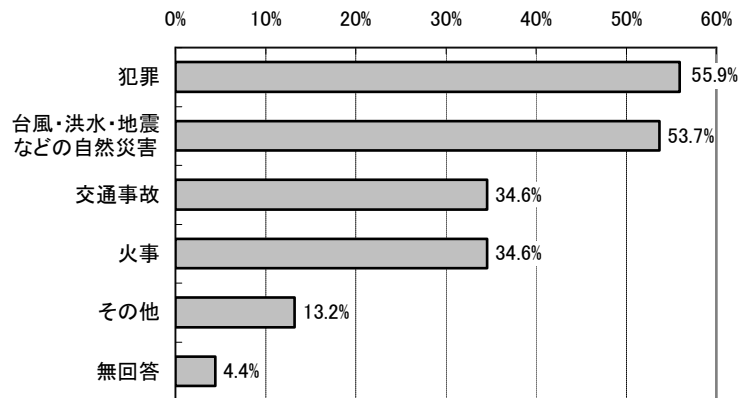


(あんしん あんぜん)

## 【安心・安全について】

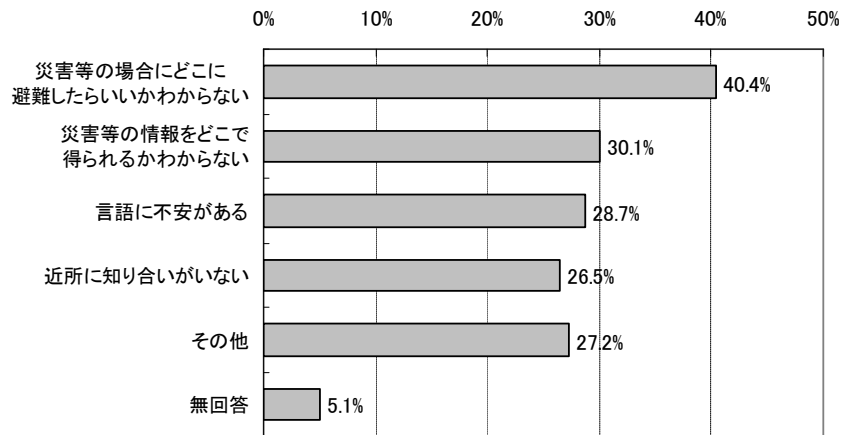
- 生活上の安全についてどのような不安があるか尋ねたところ、「犯罪」に次いで多かったのが「台風・洪水・地震などの自然災害」の53.7%であった。
- 不安に思う理由の1位は、「災害の場合にどこに避難したらいいかわからない」(40.4%)であり、災害に関して知りたい情報の1位は、「避難場所」(48.7%)となっており、地震等の災害に対して不安を感じつつも対応方法や避難場所を知らない人が多かった。

### ◆不安の内容◆



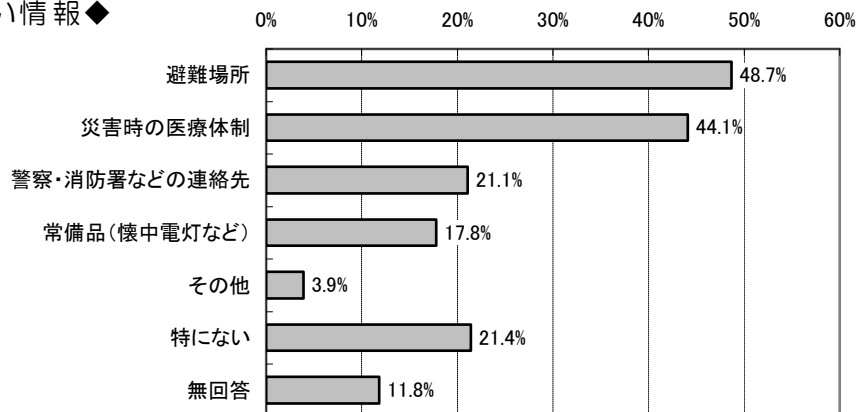
[注]複数回答

### ◆不安の理由◆



[注]複数回答

### ◆災害に際して知りたい情報◆

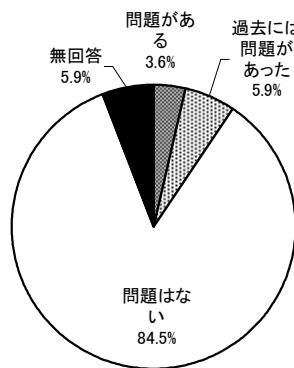


[注]複数回答

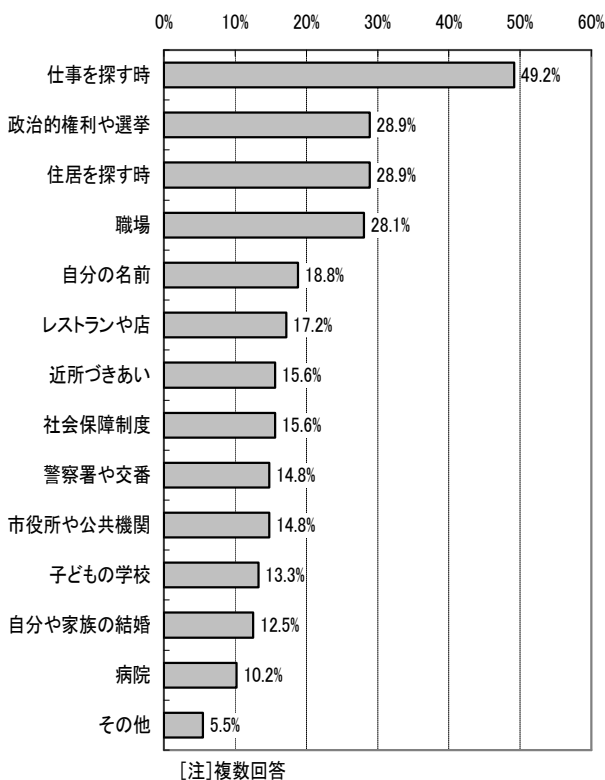
そうごりかい  
【相互理解について】

- 生活するうえで、周りの人とのトラブルがあるかどうかについては、84.5%の人が「問題はない」と答えている。
- 外国籍であることで偏見を感じたり、不愉快な経験をしたことについて、「仕事を探すとき」が最も高く、次いで「政治的権利や選挙」「住居を探すとき」と続いた。
- 人権を守るために必要なことについては、「お互いの情報を交換する」（48.0%）「お互いが交流するイベント・機会を増やす」（46.1%）の比率が高くなっており、相互の情報交換や交流を重視している傾向にある。

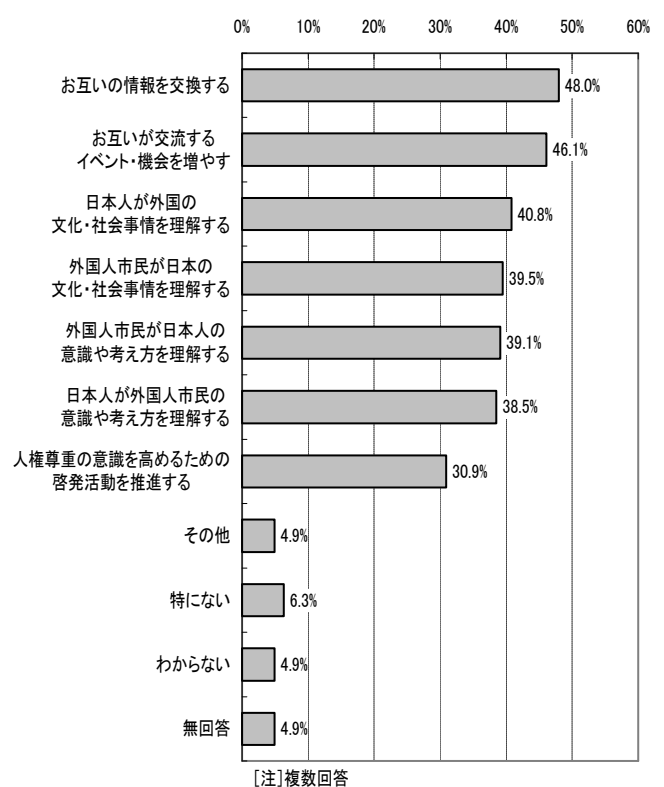
◆周囲の人との生活上の問題の有無◆



◆偏見や不愉快な経験◆



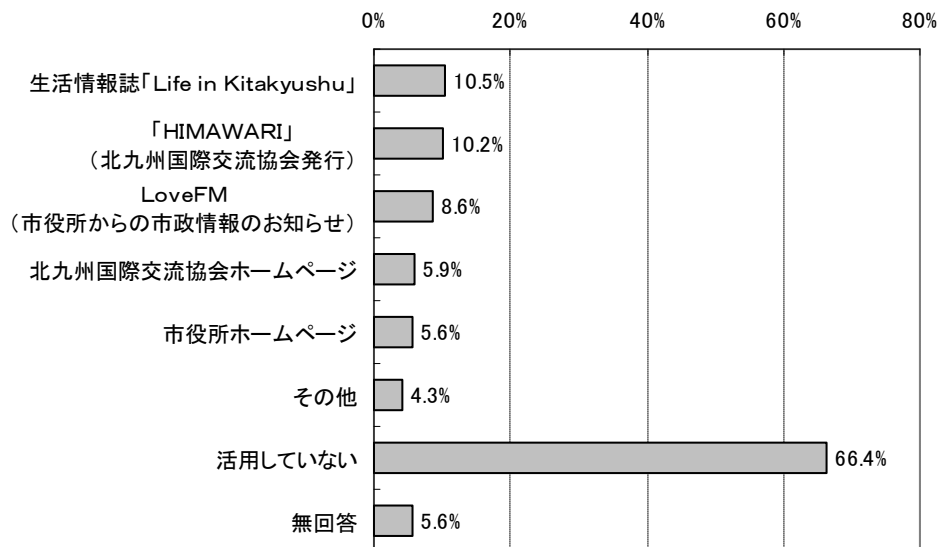
◆人権を守るために必要なこと◆



じょうほう そうだん  
【情報・相談について】

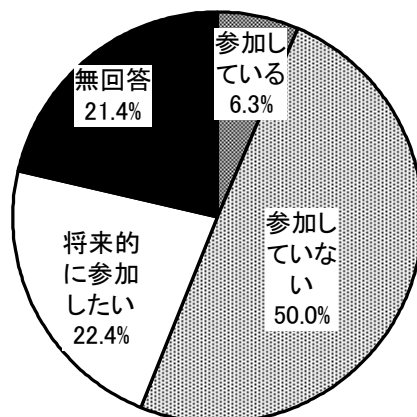
- 北九州市においては、外国人への情報提供のために、情報誌、インターネットなど多様なメディアが活用されている。
- しかし、「外国語による情報提供の活用状況」を見ると、「活用していない」が約3分の2を占めている。
- 情報源の存在自体を効果的にPRして外国人市民に周知することが重要な課題。
- また、「生活する上で必要な情報」では、「相談窓口」が第5位となっている。
- 外国人対象のボランティア団体に「将来的に参加したい」と22.4%の人が回答しているが、こうした同じ立場にある外国人市民の協力を得て、通訳者や相談員の人材の拡充を図る必要がある。

◆ 外国語による情報提供の活用状況 ◆



[注]複数回答

◆ 外国人対象のボランティア団体について ◆

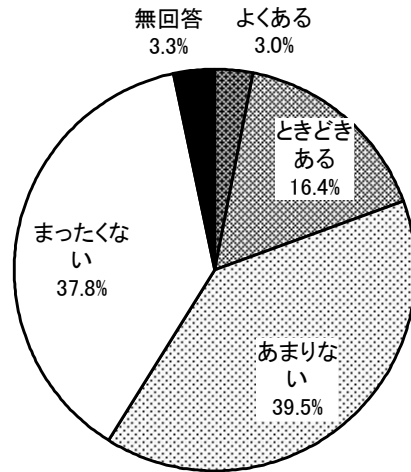


### 【行政サービスについて】

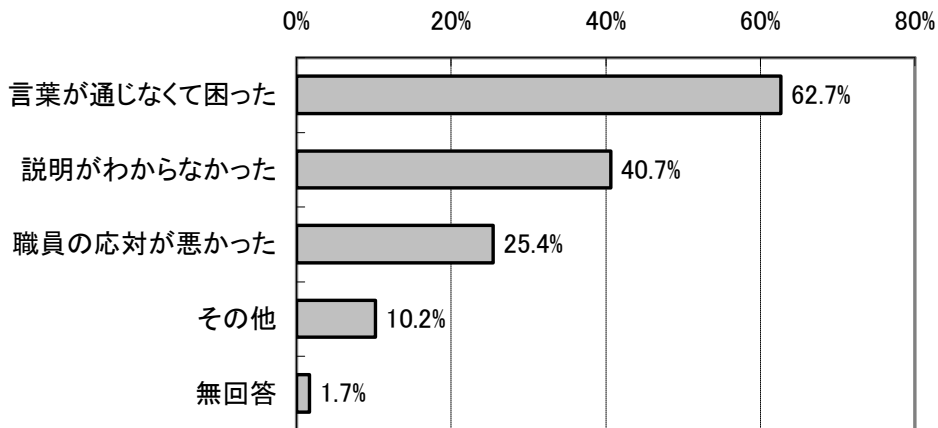
しやくしよ くやくしよ まどぐち こま けいけん

•市役所や区役所の窓口で困った経験があるかについて、「まったくない」「あまりない」が77.3%と3/4を超えている。困った経験がある人についていえば、「言葉が通じなくて困った」が62.7%で最も高かった。

◆市役所や区役所の窓口で困った経験の有無◆



◆困った内容◆



[注]複数回答